

(仮称) 岩手中部広域クリーンセンター
整備及び運営事業

審 査 講 評

平成 24 年 7 月

(仮称)岩手中部広域クリーンセンター
整備及び運営事業者選定委員会

《目 次》

第1 選定委員会-----	1
第2 優秀提案者の選定 -----	1
第3 選定委員会等開催状況 -----	1
第4 審査結果の概要 -----	2
1. 応募者-----	2
2. 入札参加資格審査-----	2
3. 基礎審査-----	2
4. 非価格要素審査-----	3
5. 価格審査-----	8
6. 総合評価点の算出及び優秀提案者の選定-----	8
第5 総評-----	9

第1 選定委員会

(仮称)岩手中部広域クリーンセンター整備及び運営事業者選定委員会(以下「選定委員会」という。)は、次の7名により構成し、設置された。

委員長	川本 克也(独立行政法人 国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 研究副センター長)
副委員長	及川 義也(北上市副市長)
委員	栗原 英隆(公益社団法人 全国都市清掃会議技術顧問)
委員	堤 研一(公認会計士・税理士)
委員	佐々木 稔(花巻市副市長)
委員	及川 増徳(遠野市副市長)
委員	高橋 智(西和賀町副町長)

第2 優秀提案者の選定

優秀提案者の選定手続きについては、「落札者決定基準」に示すとおりであるが、入札参加資格審査を実施した後、基礎審査として次の3項目を審査した。

- ・提出書類の整合確認(必要な書類がそろっているか、書類間の整合が図られているか)
- ・事業計画の整合確認(入札価格が予定価格を超過していないか、入札価格と事業計画に関する提案書の金額が整合しているか)
- ・事業提案書の要求水準確認(事業提案内容が要求水準を満たしているか)

その後、非価格要素審査に関する事業提案書の内容を評価して得点化する非価格要素審査及び価格を定量化して得点化し、総合評価方式により最高得点事業者を優秀提案者として選定した。このうち非価格要素審査の実施にあたっては、事前に応募者へのヒアリングを開催し、事業提案書の内容についての理解を深めた。

なお、審査にあたっては、応募者番号のみが記載された審査資料に基づき審査し、応募者の匿名性を確保した。

第3 選定委員会等開催状況

選定委員会の開催状況ならびに、実施方針・入札公告等の公表状況は表1に示すとおりである。

表1 選定委員会の開催状況、実施方針・入札公告等の公表状況

日 程	内 容
平成23年 8月 3日(水)	第1回選定委員会 (事業スケジュール、事業概要、要求水準書(案)の概要)
平成23年 8月 31日(水)	実施方針及び要求水準書(案)の公表
平成23年 11月 25日(金)	第2回選定委員会 (落札者決定基準、その他入札公告に向けた各種資料)
平成23年 12月 21日(水)	入札公告(入札説明書、要求水準書、落札者決定基準等を公表)
平成24年 2月 24日(金)	入札説明書等に対する質問回答公表
平成24年 3月 15日(木)	入札参加表明書及び入札参加資格審査申請書の受付締切
平成24年 3月 22日(木)	入札参加資格審査結果の公表
平成24年 4月 25日(水)	事業提案書の受付締切
平成24年 6月 9日(土)	第3回選定委員会 (基礎審査結果報告、事業提案内容について、他)
平成24年 7月 4日(水)	第4回選定委員会 (ヒアリング、非価格要素審査、価格審査、総合評価)
平成24年 7月 23日(月)	落札者決定

第4 審査結果の概要

1. 応募者

対象となる応募者は表2に示すとおり2グループであった。

表2 応募者一覧

	代表企業	構成員
応募者A	株式会社神鋼環境ソリューション	神鋼環境メンテナンス株式会社 株式会社小原建設 佐藤築炉工業株式会社
応募者B	三菱重工環境・化学エンジニアリング株式会社	重環オペレーション株式会社

2. 入札参加資格審査

入札説明書で示した入札参加資格を応募者が満たしていることを表3に示すとおり確認した。

表3 入札参加資格審査結果

	応募者A	応募者B
(1) 応募者の構成	満足	満足
(2) 応募者の参加資格要件	満足	満足
① 共通の参加資格要件	満足	満足
② 本施設の設計・施工を行う企業	満足	満足
③ 本施設の運転、維持管理を行う企業	満足	満足
④ 焼却灰のセメント資源化を行う企業	該当なし	満足

3. 基礎審査

応募者から提出された事業提案書類に記載された内容が、落札者決定基準に示す基礎審査項目を満たしていること、ならびに入札価格が予定価格を超過していないことを確認した。その結果、表4に示すとおり両応募者とも当該要件を全て満たしていた。

表4 基礎審査結果

	応募者A	応募者B
提出書類の整合確認 (必要な書類がそろっているか、書類間の整合が図られているか)	そろっている 整合が図られている	そろっている 整合が図られている
事業計画の整合確認 (入札価格が予定価格を超過していないか、入札価格と事業計画に関する事業提案書の金額が整合しているか)	超過していない 整合が図られている	超過していない 整合が図られている
事業提案書の要求水準確認 (事業提案内容が要求水準を満たしているか)	未達事項なし	未達事項なし

4. 非価格要素審査

(1) 審査結果一覧

非価格要素審査は、要求水準を満たすことはもとより、応募者が提案する内容が一般廃棄物処理業務の一環として適切かつ柔軟な対応が図られているかといった観点から、要求水準を達成するための具体的方法及び要求水準を超える具体的提案内容を審査し得点化した。具体的には、応募者から提出された非価格要素審査に関する事業提案書をもとに、「落札者決定基準」に示す25項目の各設問について表5に示す採点基準にしたがって各委員がA～Eの5段階評価を行い、その平均をとって両応募者の提案内容を得点化した（配点60点）。

表5 審査項目の採点基準

評価	採点基準	得点化方法
A	特に優れている	配点×100%
B	優れている ～ 特に優れている の中間	配点× 75%
C	優れている	配点× 50%
D	要求水準を満たす程度 ～ 優れている の中間	配点× 25%
E	要求水準を満たす程度	配点× 0%

非価格要素審査結果は表6に示すとおりである。

表6 非価格要素審査結果一覧 (1/2)

評価項目	配点	応募者A	応募者B
1.事業計画に関する事項			
(1)本事業に対する基本姿勢			
a.本事業の取組方針	3	1.607	1.821
b.本事業の実施体制	4	2.429	2.000
c.本事業の構成員等の役割分担	3	1.714	1.607
(2) 本事業の安定性に対する基本方針			
a.本事業の長期収支計画の安定性	4	2.714	2.286
b.本事業のリスク管理方針	6	2.571	3.429
2.設計・施工業務に関する事項			
(1)機械設備の設計・施工			
a.処理システムの信頼性・安定稼働に対する特徴	5	2.857	3.036
b.処理システムの非常時等での安全性確保に対する考え方及び特徴	5	3.750	3.036
c.処理システムの環境配慮に対する特徴	5	2.679	3.393
d.処理システムの熱エネルギー回収に対する特徴	5	3.750	2.857
e.処理システムの最終処分量負荷低減に対する特徴	9	4.821	6.107
f.処理システムの副生成物有効利用に対する特徴	3	1.929	1.607
(2)土木・建築物等の設計・施工			
a.全体配置計画及び動線計画	4	2.857	1.571
b.外観デザイン計画	3	1.714	1.821
c.建築計画・建築設備計画等	3	1.607	1.714
(3) その他関連業務			
a.施設整備工程の立案にあたり、配慮した内容	2	1.071	1.071
b.建設工事期間中の公害防止対策、地域住民への配慮等	2	1.000	1.143
c. 地元貢献への配慮等	4	2.000	2.429

表6 非価格要素審査結果一覧 (2/2)

評価項目	配点	応募者A	応募者B
3.運営業務に関する事項			
(1) 基本的事項			
a.運営人員体制と勤務体制	3	1.821	1.393
b.安全衛生管理及び安全教育の方法	3	1.500	1.607
c. 地元貢献	6	4.071	3.429
(2) 受入・運転管理業務			
a.処理対象物の受入方法	3	1.929	1.607
b.副生成物の有効利用方法	6	3.429	3.429
(3) 維持管理業務			
a.機械設備の維持管理業務	3	1.607	1.821
b.建築物等の維持管理業務	3	1.500	1.821
(4) 環境管理・その他関連業務	3	1.607	1.714
合 計	100	58.536	57.750
非価格要素審査点 (合計点×0.6) 注)	60	35.121	34.650

注) 得点は小数点第4桁を四捨五入して、小数点3桁まで算出

(2) 非価格要素審査結果の概要

非価格要素審査結果の概要は表7に示すとおりである。

表7 非価格要素審査結果の概要 (1/3)

評価項目	講 評
1.事業計画に関する事項	
(1)本事業に対する基本姿勢	
a.本事業の取組方針	・2グループとも、組合が掲げる施設整備に係るコンセプトに対して、提案された取組方針が具体的に示されていたことから、本事業に対する意欲があると評価した。 ・応募者Bについては、提案に際して地元懇談会を独自に開催して意見を集約するなど、地域との関わりを積極的に反映した提案を高く評価した。
b.本事業の実施体制	・2グループとも、提案された実施体制やバックアップ体制が具体的に示されており、適切であると評価した。 ・応募者Aについては、現ごみ処理施設の運転管理を受託中である地元企業を運営企業として参画させるなど、地域におけるごみ処理の事情を反映できることを期待して高く評価した。
c.本事業の構成員等の役割分担	・2グループとも、提案された構成各企業の役割分担が具体的に示されており、適切であると評価した。

表7 非価格要素審査結果の概要 (2/3)

評価項目		講 評
(2) 本事業の安定性に対する基本方針		
a.本事業の長期収支計画の安定性		・2グループとも、提案された長期収支計画の安定化方策が具体的に示されており、適切であると評価した。 ・応募者Aについては、運営事業者に対する財務的な支援方策の提案を高く評価した。
b.本事業のリスク管理方針		・2グループとも、想定されるリスクやリスクヘッジの方策が具体的に示されており、適切であると評価した。 ・応募者Bについては、セルフモニタリングの内容として、地元 NPO や地元住民などによる外部監視機能の導入を提案していることを高く評価した。
2.設計・施工業務に関する事項		
(1)機械設備の設計・施工		
a.処理システムの信頼性・安定稼働に対する特徴		・2グループとも、提案された処理システムは実績に基づく技術改善を反映させた設備であることが具体的に示されており、信頼できる処理システムであると評価した。
b.処理システムの非常時（地震・火災・停電時）等での安全性確保に対する考え方及び特徴		・2グループとも、提案された処理システムの非常時対応が具体的に示されており、安全性確保に対する考え方が適切であると評価した。 ・応募者Aについては、先の東日本大震災での罹災経験を踏まえるなど、施設の自立運転に際して、より十分な非常用電源を確保する提案を高く評価した。
c.処理システムの環境配慮に対する特徴		・2グループとも、提案された電力消費や燃料等の使用を低減する設備に係る技術提案が具体的に示されており、適切であると評価した。 ・応募者Bについては、自然エネルギーの利用促進につながる太陽光発電や雪室など、独自提案として多様であったことからこれを高く評価した。また、処理システム全体を通して、より高いCO₂排出量低減効果があると評価した。
d.処理システムの熱エネルギー回収に対する特徴		・2グループとも、高効率ごみ発電を実現するための設備上の考え方が実績に基づき具体的に示されており、適切であると評価した。 ・応募者Aについては、施設から出る余剰排熱を事業用地内の寒冷地対策として利用するなど積極的な熱エネルギーの回収ならびに利用促進の提案を高く評価した。
e.処理システムの最終処分量負荷低減に対する特徴		・2グループとも、最終処分量を低減するための設備上の考え方が実績に基づき具体的に示されており、適切であると評価した。 ・応募者Bについては、処理システム全体を通して、より高い最終処分量削減効果があると評価した。
f.処理システムの副生成物有効利用に対する特徴		・2グループとも、副生成物を確実に有効利用するための設備上の考え方が具体的に示されており、適切であると評価した。
(2)土木・建築物等の設計・施工		
a.全体配置計画及び動線計画		・2グループとも、提案された全体配置計画が動線計画とも整合のとれたものとなっており、適切であると評価した。 ・応募者Aについては、一般搬入車両に対する安全の確保に配慮した動線計画を高く評価した。
b.外観デザイン計画		・2グループとも、提案された外観デザインについて、周辺環境との調和がなされており、適切であると評価した。
c.建築計画・建築設備計画等		・2グループとも、実績に基づく機器配置、見学者への配慮ならびに寒冷地対策を考慮した外壁材仕様などが建築計画に反映されており、適切であると評価した。

表 7 非価格要素審査結果の概要 (3/3)

評価項目	講 評
(3) その他関連業務	
a.施設整備工程の立案にあたり、配慮した内容	・ 2 グループとも、寒冷地施工対策を重点課題に捉えた施設整備工程が提案されており、事業スケジュールを踏まえ適切であると評価した。
b.建設工事期間中の公害防止対策、地域住民への配慮等	・ 2 グループとも、提案された建設工事期間中の公害防止対策が具体的に示されており、地域住民への配慮として適切であると評価した。
c.地元貢献への配慮等	・ 2 グループとも、提案された施設整備に係る地元雇用の考え方が具体的に示されており、地元雇用への配慮として適切であると評価した。 ・ 応募者 B については、より高い地元企業等発注予定金額割合を評価した。
3.運営業務に関する事項	
(1) 基本的事項	
a.運営人員体制と勤務体制	・ 2 グループとも、提案された運転人員体制及び勤務体制の指揮命令系統が具体的に示されており、適切であると評価した。 ・ 応募者 A については、より適切な人員配置や体制の提案を高く評価した。
b.安全衛生管理及び安全教育の方法	・ 2 グループとも、提案された PDCA サイクルが具体的に示されており、適切であると評価した。
c.地元貢献	・ 2 グループとも、提案された運営業務に係る地元雇用の考え方が具体的に示されており、地元雇用への配慮として適切であると評価した。 ・ 応募者 A については、地元の既存施設の従業員を雇用する具体的な計画を高く評価した。
(2) 受入・運転管理業務	
a.処理対象物の受入方法	・ 2 グループとも、提案された処理対象物の受入方法が具体的に提案されており、適切であると評価した。 ・ 応募者 A については、一般持込者に対する快適性・安全性に配慮した工夫が具体的に示されており、また、処理不適物の確認方法が具体的であり高く評価した。
b.副生成物の有効利用方法	・ 2 グループとも、提案された副生成物の引き取り等の確実性が具体的に示されており、運営期間を通じて確実性が高いと評価した。
(3) 維持管理業務	
a.機械設備の維持管理業務	・ 2 グループとも、提案された機械設備の機能を維持するための考え方が具体的に示されており、適切であると評価した。 ・ 応募者 B については、運営期間終了後、要求水準を上回る 15 年間の維持管理計画についての具体的な提案を高く評価した。
b.建築物等の維持管理業務	・ 2 グループとも、提案された建築物、建築設備、外構施設の機能を維持するための考え方が具体的に示されており、適切であると評価した。 ・ 応募者 B については、運営期間終了後、要求水準を上回る 15 年間の維持管理計画についての具体的な提案を高く評価した。
(4) 環境管理・その他関連業務	・ 2 グループとも、提案された計測管理、運転データの記録及び報告方法が具体的に示されており、独自の創意工夫がなされていると評価した。

5. 価格審査

価格審査結果は表8に示すとおりである。価格審査は、「落札者決定基準」に基づき、入札価格について得点化を行った（配点 40 点）。

表8 価格審査結果一覧

項 目	応募者 A	応募者 B
入札価格	19,160,000,000 円	13,472,050,600 円
(①施設整備事業費)	(① 11,260,000,000 円)	(① 8,937,000,000 円)
(②運営業務委託費等)	(② 7,900,000,000 円)	(② 4,535,050,600 円)
価格審査点	26.256 点	40.000 点
(①施設整備費価格点)	(① 11.905 点)	(① 15.000 点)
(②運営業務委託費等価格点)	(② 14.351 点)	(② 25.000 点)

注) 価格審査点＝施設整備費価格点＋運営業務委託費等価格点 (配点 40 点)
 ・施設整備費価格点＝施設整備費の配点×最低入札価格／入札価格 (配点 15 点)
 ・運営業務委託費等価格点＝運営業務委託費等の配点×最低入札価格／入札価格 (配点 25 点)
 得点は小数点第 4 桁を四捨五入して、小数点 3 桁まで算出
 金額は消費税抜きで表示
 予定価格は 20,600,000,000 円(消費税抜き)

6. 総合評価点の算出及び優秀提案者の選定

「落札者決定基準」にしたがい、表 9 に示すとおり両応募者の総合評価点を求めた（配点 100 点）。

その結果、より高い総合評価点を得た応募者 B（三菱重工環境・化学エンジニアリンググループ）の提案を優秀提案として選定した。

表9 総合評価点の算出結果

項 目	配点	応募者 A (神鋼環境ソリューショングループ)	応募者 B (三菱重工環境・化学エンジニアリンググループ)
非価格要素審査点	60	35.121	34.650
価格審査点	40	26.256	40.000
総合評価点	100	61.377	74.650

注) 1.総合評価点＝非価格要素審査点＋価格審査点
 2.非価格要素審査点、価格審査点ともに小数点第 4 桁を四捨五入して小数点第 3 桁まで算出

第5 総評

本事業では、2グループから応募を受け、いずれも本事業の事業目的を理解し要求水準を上回るものであるとともに、技術面及び価格面双方において民間事業者の創意工夫やノウハウが盛りこまれた高いレベルでの提案であった。

選定委員会は、厳正なる審査の結果、三菱重工環境・化学エンジニアリンググループを、(仮称)岩手中部広域クリーンセンターの整備及び運営事業において、岩手中部広域行政組合の期待に応えることができる優秀提案者として選定した。

特に、優秀提案者として選定した三菱重工環境・化学エンジニアリンググループの提案では、全体を通して 35 年以上の安定的な実績をもつ成熟したストーカ炉の技術力を存分に発揮させ、施設整備に係るコンセプトに掲げるすべての項目についてその実現性を高めることができる内容であったほか、自然エネルギーを活用した太陽光発電や雪室などの多様な独自提案を積極的に採用するなど、循環型社会形成推進に貢献できる内容であった。また、提案に際しては地元懇談会を独自に開催して意見を集約するなど、地域との関わりを重要視し積極的に提案へ反映されていることを高く評価した。

今後、岩手中部広域行政組合と三菱重工環境・化学エンジニアリンググループが良好なパートナーシップを構築し、公共事業の一環として事業目的に沿った安心・安全で循環型社会形成に寄与したごみ処理が実施されることを期待する。そのため、三菱重工環境・化学エンジニアリンググループに対しては、今回、事業を実施するにあたって提案内容に関して次の点に配慮することを望むものである。あわせて、選定委員会は岩手中部広域行政組合が、これらを配慮事項として改善に反映させることを望み、三菱重工環境・化学エンジニアリンググループに明確に伝えるとともに、双方が誠実な協議を重ねることにより、本事業がより良いものになっていくことを期待する。

- ①事業用地内における寒冷地対策（除雪・排雪等の積雪対策、構内道路の凍結対策など総合的な対策）に一層の配慮をすること。
- ②障がい者を含めた地元雇用については、事業の安全性の確保を図りつつ作業内容に対する適性を検証しながら十分に配慮をすること。
- ③人員配置、従業員の処遇、地元貢献など、運営管理には一層の配慮をすること。

平成 24 年 7 月

(仮称)岩手中部広域クリーンセンター整備及び運営事業者選定委員会 委員長 川本 克也